



平成31年1月21日発行 JRS編集人 小山内 位



## 巻 頭 言

全日本リコーダー教育研究会 会 長 **牧 野 光 洋** 

平成の時代が終わろうとしています。今年度から小学校では新学習指導要領への移行措置が始まっている中、「深い学び」をどのように捉え、実践し、児童・生徒たちの学びとしていくかが大きな課題と考えます。人工知能(AI)が進化して人間が活躍できる職業が少なくなる。学校で教えていることは、時代が進むと通用しなくなる。この二つが、これから訪れる未来社会を不確実で不安なものと感じさせる要因となっています。

人が人である意味は、言葉を介したコミュニケーション、「伝える・伝わる」ということにあると考えます。さらに、

人間がもつ特性である言葉を「音」に置き換え、考えること、考えていく姿勢を養うことが、リコーダー教育の「深い学び」への突破口と考えます。古の世界から、世界観や生活様式がさまざまに変わろうとも、「音楽」は継承されて参りました。楽器の中には、産業革命等により進化したものもありますが、「リコーダー」は、社会の変容に揉まれながらも、人間の心の支えとして、脈々と、形も含めて継承されてきました。人々が心の安らぎを求める手段として音楽は存在しています。全日本リコーダー教育研究会の目指す根幹は揺らぎません。リコーダー音楽教育を通じて明日を担う子どもたちを育むことを主として、皆様と共に我が国の音楽文化の向上に寄与することを目指しております。

この会報が、全国各地の指導者及びリコーダー愛好家の情報源となり、有効に活用されて、次の時代も変わらず素晴らしい音色が伝承されることを祈っております。



#### 特別寄稿

「あの道を登って 少し右に曲がった先に…」

審査委員長・武蔵野音楽大学講師 リコーダー奏者 吉 澤 実

1986年、NHK教育テレビ(現Eテレ)学校放送第3学年「ふえはうたう」の番組講師を依頼され、リコーダーのもつ教育的な力は何だろうと自問自答しながら放送台本やテキストを書いた。番組が始まって2年目、この楽器のもつ教育的な力をリコーダー教本「いい音見つけた」(教育芸術社1988年)の指導書に次のようにまとめた。この考えは30年以上たった今でも全く変わっていない。

"リコーダーのもつ教育的な特性"

- ①発音が簡単なため、早期のうちに喜びのある(達成感のある)音楽体験ができる。
- ②管楽器奏法の基礎である楽器の支え方、呼吸法、タン ギング奏法、運指法の基本が短期間に学べる。
- ③「息」で生まれる音は「自分」の「心」の音として伝わるため、歌唱法と共通性があり、音楽表現法を習得しやすい。

- ④音をつくる楽器のため聴音能力や創造力を芽生えさせやすい。
- ⑤ソプラノとアルトリコーダーを学ぶことで、調和を必要と するアンサンブルに展開しやすい。
- ⑥中世、ルネサンス、バロック現代曲と幅広く豊富なレパートリーがあり、文学、絵画、踊りとも関連があるため、あらゆる年代の人々の知的好奇心や美的要求に応ずることができる。
- ⑦古楽、現代音楽、教育のための楽器(生涯学習楽器) の要素をもつ。

私はザルツブルク・オルフ研究所(音楽教育)を修了し、モーツァルテウム音楽大学リコーダー科のソリスト・ディプロムを取得して卒業した。C.オルフ自身の指揮でリコーダーを演奏し、モーツァルテウム管弦楽団やオーストリア現代音楽アンサンブルのフルート奏者として活動してきた。特にリコーダーの現代曲のコンサートを数多く行った。帰国し、廣瀬量平氏に委嘱した「Ode I」の初演を兼ねて東京カテドラルで帰国リサイタルを開催した。さあこれから日本で頑張ろうという時、ある大学から集中講義の声がかかった。依頼文書の講義名は「簡易楽器演習」とあった。「たて笛=簡易楽器」・・・・呆然

と立ちすくんだ。

調べると、昭和22年の文部省学習指導要領(試案)では 諸井三郎、花村大先生らが芸術楽器としてとりあげたこの 楽器がいつの間にか簡易楽器に分類されていた。(全日本 リコーダーコンテストの「花村賞」はこの花村先生のお名前 をいただいた。)いろいろ働きかけた結果、平成元年に学習 指導要領の「たて笛」表記を「リコーダー」と改称した。

リコーダーはシェイクスピアの「ハムレット」の第3幕2場に "嘘をつくように簡単に音が出る"と登場し、ヴァニタス画にフェルメールやファン・フリートが描いたほど広くヨーロッパで親しまれていた楽器である。

G.Fr.ヘンデルやG.Ph.テレマンは多くのリコーダーソナタを、J.S.バッハは21曲のカンタータや2曲のブランデンブルク協奏曲を、A.ヴィヴァルディは超絶技巧の協奏曲を数多く作曲した。

これらの作品は全てバロック式運指のリコーダーのために作曲されている。ジャーマン式運指のリコーダーは1926年頃、ナチスの青少年音楽教育運動で考案され戦意高揚の道具として生まれた笛だ。

ベルリンオリンピックで合奏されたA.ヒトラーのジャーマン式リコーダーが、今日の平和な日本で広く使われていると思うと、パヴロフの著した「茶色の朝」のような暗澹たる気持ちになる。

日本の学校教育でのジャーマン式の多用は、大学の教職課程でリコーダーを指導できる大学教員がほとんどいないことが主な原因であろう。現在、ドイツはもちろん欧米ではジャーマン式は使用していない。

ジャーマン式ソプラノリコーダーはト長調の曲はすでに演奏困難となり、アルトリコーダーではハ長調の曲の演奏さえ不可能となる。

横浜市では既に30年以上前から小学校5·6年生でアルトリコーダーの導入をおこなっているが、それができるのはア

ルトと運指がリンクしているバロック式ソプラノリコーダーを 使用しているためである。

タンギング法についても私が執筆を依頼される前の教員養成課程用「音楽教育法」(音楽之友社)には「リコーダーのタンギングは舌を歌口に触れて行う」と書いてあった。この間違いにも驚いた。教員免許更新講習を10年前から行っているが、タンギングを歌口に触れて演奏し、指導している教師がいることにその弊害を感じた。1535年にS.ガナッシがヴェネチアで出版したリコーダー教本「フォンテガーラ」には58種類のタンギング・シラブルが書かれて以来、現在もタンギングは口内だけで発音される。昨今、ジャーマン式のもつ可能性を唱えたり推奨したり、移調楽器としてアルトリコーダーを扱うことを試みようとする考えも聞かれるようになった。どれもかつてドイツで行われて失敗した。アルトリコーダーを移調楽器として扱った楽譜も出版されていたが全て消えた。

J.S.バッハ以前の時代から現在もアルトリコーダーは実音記譜されている。しかし、現在、日本の小中学校音楽教科書だけはアルトリコーダーの音符表記がオクターヴ低く書かれている。実音記譜にすべきだと長い間働きかけているのだが、変更はなかなか難しいようだ。学校で誤った音符表記は教えてはいけない。子どもたちが将来リコーダーの作品を演奏するようになった時に読譜で困惑しないようにしたい。

いろいろなことに出会い、その都度驚き、落胆し、祈り、喜び、感謝してきた。東山魁夷氏の描いた「道」のように、あの道を登って少し右に曲がった先には・・・と希望をもって歩き続けている。何故なら、音楽教育は、子どもに内在する未知なるものを見つけ、引出し、互いに育み合うことだから。一緒に歩くぼくにも未知なるものが潜んでいることを教えてくれるから。音を発することは生命行為そのものだから。

(日本音楽教育学会 News Letter 2018年3月「音楽教育の窓」に省略して掲載した全文。)

# 第39回 全日本リコーダーコンテスト 審査員寸評



「全日本リコーダーコンテストに 寄せて」

文部科学省教科調査官 臼 井 学

平成30年3月25日に行われた第39回全日本リコーダーコンテストでは、「合奏部門」の審査をさせていただきました。小学校、中学校、高等学校、大学、一般の全てにおいて、各団体の持ち味とリコーダーの持ち味が一体となった、聴きごたえのある演奏の連続でした。リコーダーは、多くの小学校、中学校において音楽の授業で用いられていますが、今回の

演奏を聴きながら、その音色の美しさ、表現の多彩さや奥深さを改めて実感する時間となりました。心より感謝申し上げます。

少人数の団体では澄んだ音色と個々の動きの明確さが、大人数の団体では厚みのあるサウンド感と大きな音楽の流れが感じられました。人数の違いはあっても、合奏において共通することは、個々がその音楽を豊かに感じ取りながら、仲間と共にどのように一つの音楽として表現していくのかということにおもしろさがあり、また難しさもあるということだと思います。個々の主張が強すぎれば調和が乱れてしまいますが、個々の主張が弱すぎれば音楽としての魅力が失われます。そのような中、互いの表現を聴き合ったり感じてい

ることを伝え合ったり、また自分の役割を果たすために自分 の演奏に磨きをかけたりしながら、自分たちができるよりよい 音楽表現を求めて取り組んできたことに大きな価値がある と思います。

このようなコンテストでは、本番の演奏はほんの数分です。 本番では、自分の思うような演奏ができた人、不本意な演奏 になってしまった人、様々あろうかと思います。これは、ある意 味「一発勝負」の世界の厳しさであり、この経験はとても貴重 なものです。しかし、その本番の数分の演奏に至る過程にこ そ、音楽活動の楽しさがあるのだと思います。音楽表現には ゴールがありません。共に音楽活動を楽しむ仲間がいること の素晴らしさを噛み締めながら、ぜひ、これからもこのステー ジを目指し、日々の音楽活動の楽しさを味わってほしいと思 います。そのことが、音楽によって、心豊かで潤いのある生活、 そして社会を創っていくことにつながると考えています。

全日本リコーダー教育研究会をはじめ、関係の皆様のご 尽力に敬意を表しますとともに、本コンテストの益々のご発 展をご祈念申し上げます。



## リコーダーのタンギング、 アーティキュレーション

横浜国立大学非常勤講師 <sup>リコーダー奏者</sup> 川 端 り さ

今回大ホールでの演奏において、特に10人前後のグループの演奏の良さが際立ったと感じました。沖縄県立南風原高等学校による、森野咲花作曲「リコーダーのための組曲」の演奏はアーティキュレーションの快活さ、または滑らかさを用いて、場面ごとの曲想を巧みに表現していました。また、難易度の高いテンポの変化を一体感を持って演奏できていました。全体的な音程の良さが響きを倍増させ、9人の演奏でもしっかりと耳と心に届く演奏となったと言えます。

毎年この寸評の中で演奏技術について触れていますが、 今回はタンギングの向上に非常に役に立つ2冊の本を紹 介したいと思います。

1.田中せい子,「リコーダーのタンギング:生き生きとしたアーティキュレーションのために」アントレ編集部, 1998.

本書はタンギングについて大変丁寧に、系統立てて 説明しています。タンギングとアーティキュレーションの 定義、日本語を母国語とする人がタンギングをする際 の注意点、タンギングに用いられる子音の発音、母音 選択、音の止め方等が分かり易く説明されています。ほぼ全ての章に実践的な練習曲が含まれていて、一章ずつ理解し、攻略していけば必ず演奏だけでなく、指導においても有益な経験が得られるはずです。

2.Kees BOEKE, The Complete Articulator for Treble Recorder and other Wind Instruments, Schott ED12261, 1986.

本書はTとDの子音を、旋律のパターンによって使い分けられるようになるための練習曲集です。音域はアルトリコーダー用となっています。Part 1(16曲)は運指の難しさが際立つので、Part 2(33曲)の練習曲の中で、運指が比較的易しいものを、遅めのテンポで始めると良いと思います。指定されているタンギング・シラブル(例:DDDD、DTDD、DDTD等)を四音のパターンから成る短い練習曲に当てはめて、TとDの発音を練習します。田中氏の本でタンギング・シラブルの違いが分かるようになってから、更に技術を磨くために本書を用いると良いでしょう。

是非このような書物を活用し、タンギングに関する練習曲を普段のアンサンブル指導に組み込んでいただければと思います。タンギング、アーティキュレーションというツールを用いて、生徒たちが音楽の様々な表情を更に効果的に、更に魅力的に表現できるようになることを心から願っています。



「リコーダー音楽の宝庫、ルネッサンス」

リコーダー奏者

田中 せい子

今年も予選を勝ち抜かれて来た皆様の素晴らしい演奏に心からの拍手を送ります。どの演奏も丁寧に時間をかけてさらい、合わせ、一つ一つの音が大切に吹かれており、大変胸を打たれました。そしてこの度、強豪校揃いの北海道が突然の大地震に見舞われたことは大変不幸なことでした。心よりお見舞い申し上げるとともに、被災された皆様が1日も

早く元通りの生活に戻られ、来年もまたいつも通り、北海道からも多くの方が本選に進まれることを願います。

小ホールの審査で今回私の印象に残ったのは北海道・ 北広島エアリードットの北野暖奈さん、札幌市立西野中学校のハイドンの「パルティータ」、北見市立相内中学校の「スペイン組曲」、新潟・新発田市立紫雲寺中学校の「ミュンヘンの想い出」、三重・鈴鹿市立白子中学校の「ケルティック・ファンシーズ」などでした。どのグループも、美しい音、正確なテクニック、リズム、アンサンブルで大変レベルの高い演奏をされていました。

私のかねてからの希望は、これほど素晴らしい皆さんによるルネッサンス時代のカンツォンや舞曲、ファンタジアなどを

ぜひ聴いてみたい、ということです。ルネッサンスは歴史的に見てもリコーダー合奏の最盛期であり、名曲が山のように書かれました。それらをぜひ、皆さんのリコーダーで聴かせて頂きたいのです。コンテストでよく取り上げられている現代作曲家のアンサンブルは、曲自体はノリもよくて面白いけれど、演奏楽器がリコーダーである必要はないと思います。一方、ルネッサンスのレパートリーはリコーダーが主役です。リコーダーにそれをやらせたら、他のどんな楽器にも負けません。曲のスタイルがリコーダーという楽器にぴったり合っているからです。500年も前に書かれた貴重なリコーダー曲がこれほどたくさんあるのに、現在リコーダーを一生懸命やっていらっしゃる皆さんが、それらにあまり触れずにいることは、大変残念なことに思えるのです。

さらに、ルネッサンス音楽はリコーダーの基本奏法を学ぶのに大変適しています。多声の中に埋もれないよう一つ一つの音型をはっきりと区切るタンギング、と同時に音楽の流れが途切れてしまわないよう、タンギングと無関係に流れ続ける安定した息、これがないと説得力を持って楽曲を演奏することができません。またこの基本と合わせて学びたいのが、ルネッサンス音楽がどのように作られているのかを知ること

です。もしある曲が退屈、または難解に聞こえたとしたら、それは多くの場合、奏者が曲をよく理解しないで演奏しているためです。ルネッサンス音楽はリズムや音が簡単なものも多いのですが、それらをどう読み取ってどう音にするかは、ある程度の知識がないとわからない。単純そうに見えて実はそうでもないレパートリーなのです。ただその知識はそれほど複雑なものではなく、幾つかのルールと響きを覚えればいいことです。そしてこの力を身につけておけば、それはルネッサンスだけでなく、それ以降のあらゆる時代の西洋音楽の演奏に応用でき、その力を土台にいろいろなスタイルの音楽を理解することができるようになるでしょう。

本当にハイレベルなテクニックを持ってリコーダーが吹ける皆さんですので、これら基本の奏法や知識は少し時間をかければきっとすぐにマスターできるはず。ぜひ挑戦していただきたいものです。毎年表彰式の際に会場を埋め尽くすたくさんの皆さんの姿を見るたび、この中から一人でも多くの方がリコーダーの本来の音楽を知り、その美しさを認め、ふさわしい奏法でこの楽器をずっと演奏し続けていってくれれば!切に願います。そして、それを実現するために私にも何かできることがあるならば、少しでも力になりたいと思っています。



一般の部、万歳\(^o^)/

リコーダー奏者

太田光子

私は第33回全日本リコーダーコンテストから審査に参加させていただいております。今回は私にとって7回目の審査、小ホールでの「独奏・重奏部門」を担当いたしました。全国各地から集まってきた皆さまの演奏をお聴きできるのを、毎回とても楽しみにしています。

今回、まずは一般の部の参加者の方々に拍手を送りたいと思います。今年は、しっかりと曲を見つめ、冷静に技術的なコントロールをし、リコーダーの音を通して音楽的な表現のできた演奏が多く見られました。一般の部全体のレベルの向上が見られたのも、喜ばしく思います。

沖縄県のUN JOURは、強弱付けて変化を意識、各セクションのキャラクターの違いをしっかり捉え、その表情の変化をしっかり打ち出していました。毎年生き生きとした演奏を聴かせてくださる静岡県の大岡亮介さんは、ヴィヴァルディのリコーダー協奏曲ハ長調RV443の第3楽章を演奏。高度なテクニックを要するこの曲を、堂々と、かつ伸びやかに楽しそうに演奏する姿は、大変印象的でした。和歌山県の井上洋子さんは、第1楽章ではフレンチならではのニュアンスに富んだ音色、フレーズのまとめ方等も丁寧に仕上げていました。生き生きとした第2楽章、端正にまとめた第4楽章、ご自身でつけ

た装飾音符なども効果的、それぞれの楽章での意図が明確に伝わる秀逸な演奏でした。J.van エイクのカムアゲインを演奏した愛知県の岩田龍明さんは、テーマでのクセのない、まっすぐに客席に伸びてくる音色が際立ち、ヴァリエーションの細かいパッセージであっても音色の美しさはそのままに、音楽的な表現をする余裕も感じられました。新潟県の庭野宏樹さんは、G.バッサーノのリチェルカータ第3番を演奏。曲の核となる音型を大切に扱い、曲の展開に合わせて、演奏も勢いに乗っている様子が見事でした。

何よりも、一般の部にご参加の方々は、リコーダーとともに 心豊かな人生を送っている姿を、コンテストに参加の多くの 子供たちの前で見せてくださっており、その存在にうれしくな ります。

もちろん、子どもたちも負けてはいませんでした。独奏で最 も印象深かったのは、栃木県足利市立東山小学校と北海 道の北広島エアリードット。ヴァリエーションでの細かい音を 丁寧に、それでいて生き生きとのびやかに、自分の言葉とし て紡いでいく音色は、客席の耳を惹きつけていました。また、 テレマンのファンタジーを演奏した北海道別海町立中春別 中学校の、たっぷりと豊かな音、高音も低音も丁寧に、ミスな く確実に吹いていく様子は堂々たるものでした。重奏の部で は、プレトリウスの舞曲集「テレプシコーレ」を演奏した新潟 県新発田市立紫雲寺中学校。クーラント及びブレでの舞曲 の特徴を掴んだ躍動感、そしてクーラントからスパニョレッタ に移った時の表情の変化が、大変効果的でした。

次は、どんな演奏に出会えるでしょうか。皆さんがコンテ

ストを目指して練習に励んでいらっしゃるのは、素晴らしいと思います。そしてコンテストを最終目標にせず、その先に広がるリコーダーの世界もぜひ見てください。例えば一般の部に

参加なさっている愛好家の方々のように、生涯にわたってリコーダーに親しむ、ステキな大人になっていただきたいなと思います。これからも期待しています。



#### 「タンギングの種類を増やす」

上野学園高等学校·同大学音楽学部講師 リコーダー奏者 **浅井 愛** 

私にとって全日本リコーダーコンテストは思い出深いものです。小学校5年生の時、リコーダーを熱心に指導くださる先生と出会いました。その事がきっかけでコンテストへ出場しました。私がリコーダー奏者になりたいと強く思うようになったのはそれから何年も先の話ですが、このコンテストがきっかけとなり演奏家、指導者の道へ進んだことは確かです。きっかけというのはどこにあるかわかりません。

今回のコンテストでは、大ホールで行われた5重奏以上、 合奏の部の審査をしました。本選という大舞台で各学校、団 体が堂々と演奏している姿に感動しました。日頃から緊張 感のある練習をしていると感じました。

その中でも北海道・訓子府(くんねっぷ)町立訓子府小学校のH.サドラー作曲「ルーマニア民謡によるディベルティメント」の演奏を聴いて驚きました。

「倍音の大きい美しい音が出せる」「息が安定感している」 「正確に音程が取れている」「フレーズを切る時が綺麗である(舌を使って音を止めることが全体で意識出来ている)」そして「音楽作りに工夫が見られる」これら一つ一つがラグビー のスクラムのようにチーム一丸となりまとまって聴こえました。 その中でもタンギングの使い方に工夫が見られると良いな と思いました。

速度のある楽章で8分音符の順次進行をポルタートで美 しく演奏する場合どのようなタンギングを使用していますか。 シングルタンギングのみで演奏すると速さについていけず 舌の根元に力が入ったように聴こえてしまう事があります。ま た強拍が続いたように聴こえます。まずは(tede,tede) (tudu,tudu)を取り入れてください(母音の選択は自由です。 その中でも顎(あご)が下がらず舌の位置が安定するi.u.eを 推奨します。ti.tu,te,di,du,de,など)。子音のDはTの発音よ りも柔らかく目立たなくなります。8分音符の連続を演奏する とき陰影をつけ輪郭の美しいフレーズを作る事ができます。ま た子音のDは裏返りやすい低音域にも使えます。そしてダブ ルタンギング(tere,tere)(dere,dere)も使いましょう。 (tere,tere)はある程度の速さで無いと発音できない (teke,teke)(tuku,tuku)に対しゆっくりしたフレーズから速 いフレーズまで様々な場面で使用する事ができます。また (tere,tere)は(tede,tede)に比べ、よりスラーに近いフレーズ を表現する事が出来ます。Rの発音は難しいとされています がこれこそがリコーダーの音楽表現を豊かにするタンギング の一つだと思います。慣れるまでには時間がかかりますが皆 さんも試してください。タンギングの種類を増やしましょう。



#### 「心を合わせ、音楽を想像する」

桐朋学園大学古楽科非常勤講師 リコーダー奏者 古橋 潤一

僕はリコーダープレーヤーです。当たり前ですが、リコーダーのことがとても好きです。それは大前提なのですが、同時に僕は音楽家でもあります。その方向から考えると、リコーダーは僕にとって音楽を表現する為のツールでしかありません。そして、演奏を人前で披露する場合、この「音楽家である」事の方が重要であることが多いのです。

このリコーダーコンテストは教育研究会の主催である以上、教育的見地で聴いていなければいけないのは承知していますが、審査員は皆、音楽家であるわけで、そうなると「音楽」を聴いてしまうのは性であります。

今回原稿の依頼の為にお送り頂いたCDを聴き直しまし

た。会場で聴くのとは違い、細部までしっかりと聴こえました。 聴こえてしまいました。つまり、ライヴでは判らない事がよく判ってしまうのです。

近年、エントリーされる方々のレベルはとても高くなってると思います。なので、逆に、良い意味でどのグループを聴いても大差ないのです。が、ではちゃんと音楽をしているかどうかという観点から聴くと…これは申し訳ないですが、僕の心に刺さる演奏は2~3グループしかありませんでした。

音程、指の回り、タテの合わせ…審査の対象になる要素 は色々あります。

このグループは音程がちょっと…あ、こちらは随分タテがずれてるなぁ…おう、ここは音程も良いし、よく指廻ってる!僕にはこんなの吹けないや。タテも合ってる!すごいね。…でもそれだけだなぁ…。

この中では3番目に書いた感想をもったグループに、多分 一番いい点は付くでしょう。でも、本当にいい点をつけたグル ープにはこうなります。「何でこんな風に吹けるんだ?」 こう思わせるグループには、例えばタテが合ってたり音程が合ってたり、それは勿論ちゃんとできているのですが、そんなことは関係ないのです。多分音程が多少ずれていても「味がある」と感じるし、タテがずれていても「フリーな演奏になってて素敵!」と感じるでしょう。

例えば曲の冒頭の音が一緒にでれない…なんてなった 時、多くの場合は合わせようと必死になるでしょう。でも、それ は音楽をするという事とは真逆な方向の作業をする事にも なるのです。

数人で気持ちを合わせ、その曲の持つ音楽にシンクロしていくこと。その「心を合わせる」作業がグループとしての音楽を成長させ、音程やタテ合わせは勝手にそれに付いてくる付録のように出来上がってしまう。僕にとってはそれが理想です。

もちろん、そんな方法では中々上手くいかないでしょうし、 小学生や中学生の方々には難しい作業かもしれません。で も、僕が今回CDを聴いて凄いな!と思ったのは、むしろ小学 生の演奏に多かったです。

音楽を表現するのに年齢は関係ありません。大事な事は 多分、想像すること。明るい曲もあれば暗い曲もある。明るい 曲なら何故明るく書いたの?暗い曲ならどういう気持ちの 時にこの曲はできたのかな?と想像することでその曲に対す るビジョンが開けていくと思います。

次回、コンクールを聴かせてもらう機会があれば、僕は変わらずに、そういう聴き方をするでしょう。

何年か前のコンクールで締めの挨拶を任された時に同じ ことを言いましたが、僕はやはり「音楽」が聴きたい!



### 「楽しませていただきました」

リコーダー製作家

游恩齊

今回の全日本リコーダーコンテストは、私が初めて「大ホール」の審査員として参加させていただきましたが、今からおよそ10年前に台北で行われたその年の台湾大会、私も審査員の一人でした。近年、台湾におけるリコーダー合奏は編成が大きくなりつつあるほか、現代の作曲家が創作した新曲にも積極的に挑戦しているようです。リコーダー合奏の発展にとって非常に良いことだと思います。10年ぶりに台湾から出場したグループの演奏を聴き、そのさらに進化した「パフォーマンス」に驚きました。

台湾から出場したグループ以外、私が最も感心したのは、中学生部の「南城市立玉城中」と高校生部の「沖縄県立南風原高」、この二つのグループです。合奏というのは、各自のテクニックや音程などの技術的なものを練磨し、みんなそれぞれの「音」を「一つの響き」にまとめることだと思います。その「響き」には和声の進行を感じる緊張感や解放感のみならず、楽句(Phrase)と楽句のあいだの「間」及び終止の後の

「間」も響きを構成する不可欠な要素の一つです。私にこの 「音楽の間」を感じさせたのは、沖縄から出場した音楽性の 素晴らしいこの二つのグループでした。

また、製作家の観点から見た「リコーダーの合奏」についての感想。いいプラスチックリコーダーであれば音程は割と安定しています。しかし、木製リコーダーの場合には、それぞれのメーカーや製作家のヴォイシングにより1本1本音程の個体差があります。さらに、調律する時のアンダーカットにより、フィンガーリング-12- ----(ソプラノのc" sharp、アルトのf"sharp)の音程が低くなりやすく、フィンガーリングの123 -5--(ソプラノのf" sharp、アルトのh")の音程が高くなりやすいことなどは、木製リコーダー性能上の弱点であります。コンテストに出場した大半のグループは木製リコーダーとプラスチックリコーダーを混用していましたが、プラ管と一緒に合奏をする時に音程のバランスを克服しないと、簡単に合奏の致命傷になってしまいます。音楽性はもとより、外声部、内声部を聞きながら、適した音程を取ることも重要です。

コンクールのためではなく、リコーダー合奏の面白さを楽しむために練習するほうが、必ずリコーダー音楽の素晴らしさを感じられると思います。今年みんなさんの素敵な演奏を、審査員の立場だけではなく聴衆の一人としても、本当に楽しませていただきました。



それぞれの年代ごとに リコーダー音楽の歴史に沿った 作品の理解を

リコーダー奏者

森吉京子

ここ数年、全日本リコーダーコンテストの審査員として子 供たちの演奏を聴かせていただいています。

小学生から中学生、そして中学生から高校生へと成長し

ていく過程で、同じメンバーで継続して出場しているアンサンブルの子供たちの進化がはっきりと見え、そして進化した 音色が聴こえてくることに感動を覚えます。

天真爛漫に、リコーダーと音楽の楽しさを全身で表現する小学生、自分の立ち位置と環境や大人たちとの関わりに意味があることを知り始める中学生、間もなく拓かれていく自分の未来に多少なりとも不安も感じ始める高校生…。

小学生、中学生、高校生の演奏は、それぞれこんなにも違うものなのですね!

人間形成に最も重要な1日1日を過ごすこの世代の子供たち。ステージに立つ子供たち一人一人が、リコーダーに出会ったことを将来の自慢にしてくれるかなかいと思い巡らさずにはいられません。コンテストに参加する子供たちと一緒に、数ある選択肢の中からリコーダーを選んで音楽を表現する時間を子供たちと共に過ごしてくださる先生方に心から感謝申し上げます。

私を含め、審査員のほとんどがリコーダー演奏を仕事としています。私たちにできることは何だろうか…コンテストにおじゃまするたびに考えさせられます。そんな中、一昨年と昨年と全日本リコーダー教育研究会全国大会に参加させていただいたことで、私自身が漸くスタート地点に導かれたいくつかの良いヒントがありました。

その中の一つ、私にとって一番大きなヒントとなったのは、リコーダー音楽のレパートリーはあまりに広く、これまでほぼ整理されたことがないということ。コンテストで演奏される作品にはばらつきがあり、審査には毎回そのことで悩まされます。リコーダーとその音楽をより深く理解し、リコーダーだけでなくその先につながる人生を通して楽しむ「音楽」に発展させていくには、知っておかなくてはならない最小限のリコーダー技法のほかにも、リコーダー音楽の歴史に基づく異なる様式観があります。決して難しいことではないのです。けれども知っておかなければならないことなのです。

ルネサンス時代の舞曲や対位法の音楽:

和音の合わせ方はもちろんのこと、対位法の声楽曲などに聴こえてくる旋律的「クリシェ」の理解無くして良い演奏はできません。

他の楽器のために書かれた作品のアレンジ:

ソプラノ・リコーダーとバス・リコーダーは、書かれている見かけ上の音符と実際に響く音のオクターヴ関係が 異なります。アレンジの良し悪しの判断は時として難し いこともありますが、楽器としてのリコーダーの特徴を知ることは、音楽の芸術性以前に考慮すべき重要事項です。

現代に生まれたオリジナルのリコーダー作品:

もちろん多くのすぐれた作品はありますが、中にはリコーダーのことをあまりよく知らずに書かれたものもあります。現代の作品については古い時代の作品以上に、作曲家が何を意図してその作品を書き上げたのか、疑問を持ってとことん考え突き詰めていかなくてはなりません。

ルネサンスから現代まで、時代も国境も超えるこのレパー トリーの広さがリコーダー演奏の大きな魅力の一つでもあり ます。一方で、小学生から中学生、そして高校生、もちろんその 先の大学生、一般の愛好家の皆さんへ…と人生を通して楽 しむ相棒・リコーダーとの関係がずっとつながっていくことを このコンテストを通して知るとき、審査員の一人として、リコー ダー音楽の歴史、歴史から理解できる音楽の様式観は、こ の楽器を演奏し始める小学生のうちからぜひとも知ってお いてもらいたいなぁと強く願います。リコーダーって楽しいな、 と思い始めた時から知っておきたい音楽、そして時間があ れば演奏してその響きを体験しておきたい作品があります。 どの時代のどの作品を選曲するかは、もちろん先生方に任 されているわけですが、学校の子供たちが演奏できるリコー ダーのレパートリーが歴史に沿って整理されたこともない中 で、学校の先生方が子供たちの年代に応じた作品を選び 出すことなど、本当に難しいことに違いありません。

ステージで熱演を聴かせてくれる子供たちの輝く未来を 想像しながら、私自身も何ができるか日々考えて実践してい きたいと思っています。

全日本リコーダーコンテストは、自らのリコーダー人生の 在り方も改めて考えさせていただく大切な時間です。

# 追悼

昨年4月30日、沖縄県はもとより全日本のリコーダー教育の普及・発展にその人生を捧げ続けて来た、沖縄県リコーダー教育研究会顧問の仲本朝昭先生が旅立たれました。

故仲本朝昭氏(平成30年4月30日ご逝去、享年71歳)のご遺族より、遺贈がありました。佐渡大会時に行われた役員会に先立ち、沖縄県リコーダー教育研究会顧問の親泊明美様より、本研究会牧野会長へ手渡されました。

今後の会の運営に大いに役立てていきたいと思います。 ここに改めて心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌

※尚、仲本先生を偲んで、沖縄県リコーダー教育研究会の主催で 「仲本朝昭先生 追悼演奏会」が2月9日(土)午後1時より 浦添市立港川中学校体育館で開催されます。





# 第43回全日本リコーダー教育研究会 全 国 研 究 大 会 「 新 潟 ・ 佐 渡 大 会 」 開 催 報 告

第43回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会実行委員長・佐渡地区リコーダー教育研究会会長 嶋 見 靖 之

「生涯にわたって音楽とかかわる姿を求めて~リコーダ - の特性や魅力を生かした授業や活動の工夫~」を研究 主題に、平成30年11月22日、23日の両日、新潟県佐渡市 で、第43回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会 「新潟・佐渡大会」を開催しました。大会には全国から100 名を超える皆様から参加いただきました。

1日目は、佐渡市立河原田小学校を会場に行いました。 最初に2つの授業を公開しました。一つは佐渡市立河原田 小学校3年「せんりつと音色」(授業者 藤井佐代子教諭) で、曲想に合う音色を工夫し、歌に合わせて副旋律をリコー ダーで演奏する授業でした。もう一つは佐渡市立畑野中学 校2年「曲にふさわしい表現を工夫して、友達と合わせて演 奏しよう」(授業者 岩崎かおり教諭)で、お年寄りにリコーダ ーによる日本の歌を聴いてもらうことを目指し、曲想に合うア ーティキュレーションを工夫してグループで演奏を作り上げ る授業でした。

グループでの協議と開会式の後、文部科学省初等中等 教育局教育課程課の志民一成教科調査官から、「リコー ダーの特性や魅力を踏まえつつ、聴くことを大切にすること や、課題意識、思いや意図をもって主体的に演奏を工夫し ていける授業展開の視点は、リコーダーの指導のみならず、 器楽指導全般それから新学習指導要領が目指している 生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能 力の育成という方向性に多くの示唆を与えるものである。自 分の感じ方を基にしながら判断していくということが、これ から求められる知識や技能の習得に大切。子どもたちが 自分で実際に試しながら自分の知識や技能を深めていく ことは非常に意義がある。」と講評をいただきました。

夕方からは会場をRyokan浦島に移して全国交流会を 行いました。アトラクションでは地元新潟県立羽茂高等学 校郷土芸能部による佐渡民謡の演舞が披露されました。 その後、各地リコーダー教育研究会の近況報告をはじめ、 和やかに交流が行われました。

2日目は、あいぽーと佐渡を会場に行いました。最初のシ ンポジウムは「社会に広がるリコーダーサークル その魅力 を探る」をテーマに行われました。コーディネーターは季刊リ コーダー編集長の森吉京子さん、シンポジストは太田眞美 さん(北海道RECつべつ)、海老名由美さん(新潟県羽茂リ コーダーサークル)、金秀賢さん(大阪府アンサンブルtutu)、 高江洲博子さん(沖縄県アンサンブル ベニー)の4名でし た。はじめに、シンポジストがそれぞれの活動の様子を紹



佐渡市立河原田小学校第3学年の 授業公開の様子



佐渡市立畑野中学校第2学年の 授業公開の様子



協議会の様子





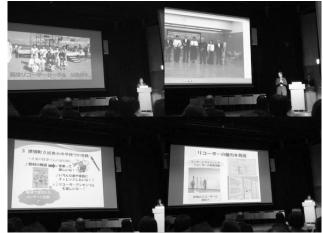
開会式



文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 志民 一成様







シンポジストの発表

介しました。その後、「メンバーのモチベーションを高めるには」、「地域とのつながりをつくるには」、「子どもとのつながりをつくるには」、「子どもとのつながりをつくるには」などの点から意見交換が行われました。途中フロアで参加いただいた志民教科調査官から「リコーダーで地域の音楽文化を活性化できることを子どもたちが目の当たりにすることで、子どもたちの音や音楽と豊かにかかわる資質能力は育っていく。このような取組をこれからも続けてほしい。」と感想をいただきました。最後に森吉さんが、リコーダーが社会に広がる要因を、①世代を超えてグループになれる、②幅広い時代の作品がある、③リコーダーが全国隅々に浸透している、④楽器の質の向上と入手のし易さ、⑤グループを率いるリーダーの人間力、の5点にまとめました。

合奏研究では「リコーダーオーケストラの魅力を探る~オーケストレーションを中心に」をテーマに、「リコーダーオーケストラのためのラプソディで変」(諸岡忠教作曲)を参加者全員で合奏しました。提案指揮は嶋見が務めました。そして最後に閉会式を行い、2日間の大会は盛会のうちに幕を閉じました。

参加いただいた皆様、共催いただいた佐渡市小・中学校教育研究会音楽部、後援いただいた文部科学省、新潟県教育委員会、佐渡市教育委員会、新潟県音楽教育研究会をはじめ、ご支援ご協力いただいた全ての皆様に感謝し、次回大会の盛会を祈念して、大会の報告といたします。







シンポジウムの様子

シンポジウムの様子





合奏研究の様子

参加者全員による記念ショット

## 次回は大阪でお会いしましょう!

詳細は詳細は3月30日(土)開催予定の 全日本リコーダーコンテストプログラムに掲載予定です。

# 全日本リコーダー教育研究会役員名簿

役職名	氏 4	名	担当	所属先(平成30年9月現在)	役職名	氏 名	所属先(平成30年9月現在)
	牧 野	光 洋		練馬区立光が丘夏の雲小学校	名誉会長	初代花村 大	
副会長点	·····································	純明美	財務統括括	八雲町立野田生中学校 新潟県リコーダー教育研究会 沖縄県リコーダー教育研究会	顧問	二代 徳山博良 一代 中澤正人 小原 惇	故人
寸 有 木 十 - -		正 紘美津美 和友	事務局長兼 事事業(兵庫担当兼務) 広広研研究(埼玉担当兼務) 財	板橋区立北前野小学校 恵庭市立島松小学校 福生市立福生第二小学校 兵庫県リコーダー教育研究会 新潟県十日町市立西小学校 南城市立佐敷小学校 川越市立高階北小学校 川崎市立久地小学校		三影橋越皆森日 原仲木山本智川 置 田本中	元東京都公立小学校
ゴハ 山 で ジ イ 金 L コ マ オ オ マ マ	三菅小嶋宮竜後鈴山長金松福高劉笠 形見川 藤木下岡 本元江	裕 靖史紫俊 照つ秀聖さ博翠也圭隆之枝栞哉光乃み賢子み子華	北栃茨新長東神静静三大宮鹿沖台 担担担担担担担担区区担担担担担担担 担担担担担担区区担担担担担担 大阪原、原、原、原、原、建湾 海木城潟野京奈静浜重、崎、児縄湾 海木城潟野京奈静浜重、崎、児縄湾 海木城潟野京奈静浜里 担担担	北月市市立大野山州市市立大野山州市市立大野山河第二学校 中学校校中校校中市市立立信子町・学校校中校校中校校中市市立立信子町・中学小学に 長馬下区立されず、学学小学の大学が、大学のでは、一大学の大学が、大学のでは、一大学の大学が、大阪市のエーが、一大学の大阪・大宮・市ので、大宮・市ので、大宮・市ので、大宮・市ので、大宮・市ので、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	名誉会員 根談 役	太花砂八橋近中中南諸 吉田岡川幡本藤村島雲岡   澤田岡川幡本藤村島雲岡   澤明澄夫一研二毅聰照教実	(鹿児島) (長 野)
		正利	L 73 1	板橋区立北前野小学校		上 杉 紅 童幸   大 竹 尚	
事務局次長 4	牛 田 )	恵美		東京リコーダー教育研究会		大竹尚之	
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	安 藤 宮 下 🧷	夏 真まままり		東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会		金吉 北北 北 北 北 北	
		喜久雄		竹早学園竹早教員保育士養成所	(	   東成90年10日	1日~平成39年9月30日)

(平成29年10月1日~平成32年9月30日)

## 編集後記

ここにリコ研だより第6号を発行する。今回もコンテスト審査 員より御寄稿いただいたき、さらに、全日本リコーダーコンテスト 審査委員長である吉澤実先生には、平成の終わりにあたり特 別寄稿をいただいた。心よりより感謝申し上げる。

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。また、成熟社会を迎えた我が国が、個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人一人の多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくことが必要となります。」

その上で、「こうした状況も踏まえながら、今後、一人一人の可能性をより一層伸ばし、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育んでいくことを目指し、未来に向けて学習指導要領等の改善を図る必要があります。」

これは、新しい学習指導要領の改訂に向けた諮問文の冒頭 部分である。

平成から、新しい時代へ始まろうとする今、変化の激しい未

来社会に向けて、新しい教育への質的転換が名言されている。 昨年、ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑・京都大学 特別教授は6つの「C」が時代を変える研究には必要だと説い ている。好奇心(Curiosity)を大切に勇気(Courage)を持って 困難な問題に挑戦(Challenge)し、全精力を集中 (Concentrate)して、諦めずに継続(Continuation)することで、 必ずできるという確信(Confidence)が生まれ、時代を変革す るような研究を世界に発信することができる。

リコーダーが日本に伝わったのは、1936年のベルリンオリンピックがきっかけとされ、小学校の教材としてリコーダーが使われ始めたのは、1959年(昭和34年)からと言われている。本年はまさに60年の節目に当たる。日本の学校教育において最も身近な教育楽器であり生涯学習楽器であるリコーダーの真価が今まさに問われようとしている。「研究はやっぱり自分に何かを知りたい」という好奇心から、仲間と共に私たちリコーダー教育研究会が発足しました。勇気を持ち、果敢に挑戦し、全国の仲間と全精力を集中してリコーダー教育の意義を再考し、諦めずに継続してリコーダーのもつ教育的な特性をしっかりと伝え、日本の学校教育においての確固たる地位を確立できる年にしたいと思う。自ら学び、共に学ぶことを期待している。

## 入会のお知らせ

本会への入会手続きは随時受け付けております。一緒に リコーダーの花を咲かせましょう!

共に学び、共に成長するリコーダー愛好家の皆さんの 入会を心よりお待ちしております。

本会の会員は次のとおりとする。

- (1)正 会 員 リコーダーを愛好する個人で別に定める 会費を納める者
- (2)研究会会員 各都道府県を単位としたリコーダー教育 研究会をもって組織し、構成員を5名以 上有し本研究会に会員名簿と、会則を提 出できる団体で本研究会が承認した研 究会で別に定める会費を納める団体
- (3)会 員 本研究会が開催する全国研究大会及 びコンテストで参加資格及び出場資格を 得た個人及び団体で各事業の申し込み において別に定める会費を納める者
- (4)維持会員 本研究会の目的に賛同し、別に定める 会費を納める者及び団体
- (5)名誉会員 本会に対し特に功労のあった者のうちから、総会の議決をもって推薦された者。

(名誉会長、顧問、参与、名誉会員及び相談役の名称で

名簿に記載する。)

会費は、年会費として徴収する。

- (1)正会員一人= 3,000円 (ただし研究会会員で登録した者は免除)
- (2)会員一団体= 3,000円
- (3)研究会会員一研究会=10,000円
- ※研究会会員とは、各都道府県を単位としたリコーダー教育研究会をもって組織し、構成員を5名以上有し、本研究会に会員名簿と、会則を提出できる団体で本研究会が承認した研究会を指す。
- ※研究会会員に所属し、会員名簿に掲載されている者 は正会員と同様の扱いとする。
- (4)会費の納入は、毎年6月末日までに納入すること。 (納入方法は別途定める。)

申し込み先 -

〒179-0072 東京都練馬区立光が丘夏の雲小学校内 全日本リコーダー教育研究会 牧野光洋

住所:東京都練馬区光が丘3-6-1 電話:03-5998-0501 FAX:03-5383-3594 http://www.zenrikoken.com/

Email zen.rikoken@gmail.com